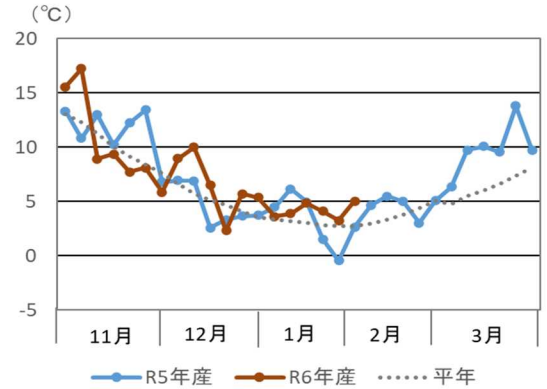


遅れずに穂肥を施用しましょう！！

1 気象と生育状況

適期播種されたほ場では、播種後、11月中旬～下旬にかけて気温が低かったものの12月以降は高温で推移したことから、平年に比べ、茎数はやや多く、草丈は平年並みとなり、生育は旺盛となっています。一方、播種が遅れたほ場では、抑制されていた生育が回復傾向にあります。





2 収量確保に向けた栽培管理

(1) 穂肥

- ・穂数と1穂粒数を増やし収量を確保するため、茎立期に穂肥を施用しましょう。播種時期やほ場条件によって、穂肥時期は変動します。ほ場を確認してから施用しましょう。
- ・現在、生育が旺盛なほ場では、2月上旬頃に茎立期を迎える見込みです。しかし、早めに穂肥を施用すると、実肥まで肥効が維持できず、早期に肥料切れを起こす可能性があります。肥効を実肥まで維持させるために、下の施用時期の目安を参考に施用しましょう。
- ・また、ほ場に積雪がある場合は、融雪後に地表面に溜まった融雪水を排水したのちに実施しましょう。

・穂肥の目安(中山間：11/5～11/15 播き、湖辺・平坦：11/10～11/20 播きの場合)

| 施肥体系 | 施用時期の目安 | | 肥料名 施用量(10a 当たり) |
|-----------------------------------|--|---|---------------------------|
| | 生育が旺盛  | 生育が平年並み  | |
| 分施肥系 ＜基肥-追肥-穂肥-実肥＞ | 2月 11～15 日頃 | 2月 16～20 日頃 | 化成肥料 201 20 kg |
| ①省力体系(基肥:麦用セラコートR2500) ＜基肥-穂肥＞ | 2月 11～15 日頃 | 2月 16～20 日頃 | 麦用セラコート R2500 40～50 kg |
| ②省力体系(基肥:麦パンチまたは麦將軍) ＜基肥-穂肥＞ | 2月 11～15 日頃 | 2月 16～20 日頃 | 麦用セラコート R2500 20 kg |
| 低コスト・後期重点体系 ＜基肥-穂肥①-穂肥②-実肥＞ | ① 2月 11～15 日頃 | ① 2月 16～20 日頃 | ① 尿素 10 kg |
| | ② 3月 10～14 日頃 | ② 3月 15～19 日頃 | ② 尿素 10 kg |

※分施・省力体系のほ場において、葉色の低下が著しい場合や生育量が少ない場合は早めに施用しましょう。

※尿素は雨で流れやすいため、降雨前の施用を避け、天候の良い日に散布しましょう。

茎立期とは

麦の葉が直立し始め、幼穂長の長さが2 cm程度の時。



写真(左): 茎立期頃のほ場



(中): 茎立期頃の株



(右): 麦の主茎長

(2)排水対策

排水不良ほ場では、麦が湿害を受け、肥料を吸収しにくくなります。排水溝（明渠）の溝さらえを行い、排水対策を徹底しましょう！

(3)雑草防除 ～ほ場で雑草を確認しましょう！～

例年、収穫期に、マメ科（カラスノエンドウなど）やハルタデなどの雑草が繁茂したほ場が多数みられます。雑草が多いと収穫や調製作業に影響を与える場合があります。ほ場ごとに雑草の発生状況を観察し、必要に応じて以下を参考に防除を検討してください。

①カラスノエンドウ・スズメノエンドウが多い場合

MCPソーダ塩

散布の目安時期は2月末から3月上旬頃で、幼穂形成期（但し、収穫 45 日前まで）です。

適用登録範囲内（収穫 45 日前まで）で散布を遅らせると効果は高まります。



写真1 カラスノエンドウ(2月撮影)

②ハルタデが多い場合

ハーモニー75DF 水和剤

※小麦のみ使用可。大麦は使用できません。

ハルタデの場合、散布の目安時期は2月末から3月中旬頃で、幼穂形成期～穂ばらみ期（但し、収穫 45 日前まで）です。

播種後、ハーモニー細粒剤Fを使用した場合は、麦生育中にハーモニー75DF 水和剤を使用できません。



写真2 麦に絡みついたカラスノエンド

バサグラン液剤

散布の目安時期は2月末から3月中旬頃で、生育期（但し、小麦収穫 45 日前まで、大麦 90 日前まで）です。



写真3 ハルタデ(1月撮影)



写真4 ハルタデが繁茂した
収穫前の小麦ほ場(5月撮影)

除草剤使用時の留意点

- いずれの剤も雑草茎葉処理で効果を発揮するので、対象雑草の発生を確認し、しっかり付着させることが大切です。
- 気温が高く天気の良い日に散布します。散布後2～3日程度、晴天が続くと効果は安定します。
- 散布直後の降雨により効果が低下するので、降雨前の散布は避けます。

農薬使用時には、必ず容器のラベルを確認し、登録内容にしたがって使用してください。

特に、令和6年産の麦類は、暖冬の影響により生育が早まっているため、除草剤の使用時期には注意してください。